

特集 地方大学の新たな選択肢

CONTENTS

(1) Interview 地方大学の進化のための新たな視点

坂根正弘氏 内閣官房まち・ひと・しごと創生会議 構成員 コマツ(株式会社小松製作所) 顧問

(2) 地方大学 2021年の現在地を確認する

データからみる地方私立大学の入学定員充足状況
——定員管理の厳格化は地方大学にどう影響を及ぼしたのか
日本私立学校振興・共済事業団

地方の未来の姿と、大学が果たす役割
株式会社三菱総合研究所

地方創生に資する魅力ある地方大学の実現に向けて
内閣官房まち・ひと・しごと創生本部

(3) 地方大学の選択肢

宮崎国際大学 / 長岡大学 / 朝日大学

(4) 競争から協働・共創へ

「地域連携プラットフォーム」の構築と活用
——より良い活用に向けたガイドラインの解説
文部科学省高等教育局

長崎県 / ふじのくに地域・大学コンソーシアム

(5) 公立大学の今後

地域と共に考える地方大学の未来
平成期に急増した公立大学の設置政策が示すもの
一般社団法人公立大学協会

編集長の視点

総花主義・平均主義・自前主義からの脱却 個性 = VALUE を明確にして、選ばれる大学創りを

小林 浩 リクルート進学総研 所長
リクルート「カレッジマネジメント」編集長

2020年12月に内閣官房は「地方創生に資する魅力ある地方大学の実現に向けた検討会議取りまとめ」を発表した。そこには、「地方大学が大学の存続にも関わり得るような重大な局面を迎えつつあるとの強い危機感」が示されている。背景には、人口減少、地域間格差の拡大、グローバル化・デジタル化による競争環境の変化がある。2018年に取りまとめられた中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」では、2040年の18歳人口を88万人と予測しているが、2019年の出生数は86.5万人となり、2020年には85万人を下回るのではという予測が報告されており、大学経営にとってより厳しい現実が待ち構えている。そこで今回の特集では、「地方大学の新たな選択肢」と題して、様々な観点から地方大学のあり方についての検討を行った。

これまで、大学生の都市一極集中の解消に向け、2016年には定員管理の厳格化が政策として実施されたが、この効果についての検証を、日本私立学校振興・共済事業団にお願いした。その結果、定員厳格化前の2015年と2020年の定員充足率をみると、地方・小規模大学の定員充足率が高まっていることが明らかになった。しかし、これは政策的なバックアップあってのことであり、今後はさらなる人口減少が進むなかで、各大学の経営努力によって、差が出てくることが予想される。

また、「地方創生に資する地方大学の実現に向けた検討会議」で座長を務めた坂根正弘氏(コマツ顧問)にその意図と方向性について伺った。内閣官房の取りまとめでは、「大学の存続は地域全体の課題」であり、「地方創生に資する地方大学のモデルをスピード感を持って創出し、「他の地方大学に波及」させていくことを狙いとして、そのトリガーとして極めて限定的に、特例的に

ではあるが、地方創生に資するものであれば、審査のうえ、地方国立大学の一時的な定員増を認め、大学改革を促すことを提言している。コマツで改革を成し遂げた坂根氏は、日本全体の地盤沈下の要因を“総花主義”“平均主義”“自前主義”と指摘したうえで、これは大学にも当てはまり、今が「地方大学が元気を取り戻す最後のチャンスかもしれない」と指摘している。

さらに、三菱総研の寄稿では、コロナ禍においてデジタル化が推進され、地方の中核都市への人口流入が見込まれていることから、社会人市場開拓を通じて新産業創出が提言されている。

私自身も、「地方創生に資する地方大学の実現に向けた検討会議」の第2回で「選ばれる大学」というテーマで意見表明をさせて頂いた。最終的に、個々の大学が個性 = VALUE を明確にし、地域に必要な機関として選ばれる大学になることが最も重要である。そのためには、大きく2つの方向性があると考えている。1つは地域のニーズに応え地域人材を育成する大学、もう1つは尖った個性を価値として全国あるいは世界から学生を集める大学である。そのためには、坂根氏が指摘する“総花主義”“平均主義”“自前主義”からの脱却は大きなテーマであり、大学が真剣に向かい合わなければならない課題である。

地方大学の課題は、大学だけが抱える課題ではない。産業構造が大きく変化するなかで、人生100年時代を迎え、デジタル化も加速している。海外では、ITの地域に生まれ変わったシリコンバレーや、鉄鋼の町から医療の町に生まれ変わったピッツバーグ等、新たな産業構造の変化に対応した地域づくりの事例もある。その地域の職業やQOLを含めた地域の魅力づくりに向け、地域の産・官・学・金が協力して進めることが肝要である。

RCM